

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490800253		
法人名	株式会社 森伸		
事業所名	ケアパートナー森伸明野		
所在地	三重県伊勢市小俣町明野1324-1		
自己評価作成日	平成 29年 2月 16日	評価結果市町提出日	平成29年4月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigyosyoCd=2490800253-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 29年 3月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・あたたかい雰囲気です。一人一人と関わりを多く持ち、出来る限り不安な生活を目指しています。
 ・ご入居者の意思と思いを大切にされた支援を行っています。
 ・ご家族等の希望を踏まえ、可能な限りのターミナルケアを実施していきます。
 ・自立支援に向け出来ない所を、声掛け・見守り・介助をさせて頂いております。
 ・できる限りご入居者及びご家族の意思を尊重させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設したばかりの事業所は、近隣に同系列のグループホームがあり、行事や災害訓練など一緒に行っている。理念である「その人を想い 寄り添い 共に生きる」を全職員で共有し、利用者の気持ちに添って行動しているが、本当にこれでよいのか常に振り返るように心がけている。施設内は安全に移動できるように、物の配置を考えたり、必要箇所には手すりを付けるなどの工夫が随所に見られる。利用者の残存能力の維持継続に配慮しつつ、自分で出来る事は食事の配膳・下膳、洗濯物を干したり畳んだりの一連の行為をし、生き生きとした時間を持ってもらう工夫と、笑顔の多い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入社員研修・責任者との個人面談、先輩から後輩への指導を行い、それを実践できるように考えています。	事業所の理念を玄関に掲げ、スタッフ全員がその人の気持ちを大切に、申し送り時や部署会議などで理念を振り返り、共有しながらケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣散歩時のご挨拶や、イベント時ご案内、施設便りの配布などで、施設やご入居者・職員と交流を持たせて頂いています。	近隣散歩や畑の水やりをきっかけに、地域住民と時々ホーム内でお茶を飲んでいる。また、地域の祭りや公民館行事に参加したり、高校生の実習やボランティアの受け入れなど普段から地域との交流を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	明野高校福祉課 実習生を受け入れ、認知症への理解を深めてもらっています。近隣の方の館内見学を推進しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月の開設から、運営推進会議を開催し、地域包括・町内住民・入居者ご家族・医療提携機関などの方に参加頂き意見交換を行っています。	2か月に1回開催し、利用者・家族・地域住民・地域包括支援センター職員などの参加で、同系列の事業所と共に行っている。事業所の利用状況を報告したりその他の意見交換が行われているが、参加メンバーが固定している。	事業所の目指す地域密着型サービスの理念に沿った運営の為にも、運営推進会議への幅広い層の参加を求め、より一層の貴重な意見交換の場になるよう望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政の方も参加して頂き、行政の取り組みを伺い、ご入居者の状況を伝え、ご家族とのコミュニケーションの場にも参加して頂き話し合いを行っています。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加してもらっている。代表が常時、市に出向き担当者と情報交換をし、協力関係を築くように取り込んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修・部署会議で職員が統一事項として理解し、言葉の拘束・身体的拘束などをしていない対応を行っています。出入口は可能な限り施錠はせず対応しています。	社内の年間研修計画にプライバシー保護も含めて、拘束をしないケア・虐待の防止などマニュアルに沿って勉強している。特に言葉の拘束については、その都度、話し合うようにし、玄関の施錠も含め、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修・部署会議で職員が統一事項として理解し、虐待につながる行為のない対応を行っています。身体的なことに関しては、入浴時や着交時に全身観察を行い傷や内出血の有無の観察を徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修・部署会議で職員が統一事項として理解し学んでいます。実際に現在1名成年後見人制度を利用されている方がおり身近に感じています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書および重要事項説明書を見て頂きながらご説明し、不安の軽減に努め理解・納得を深めて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時のご家族の言葉を大切に、上司に相談・報告し、よくなる方向へ向かっていけるよう話し合い実行しています。運営推進会議にご家族も参加して頂きご意見を伺っており、苦情相談窓口も設置しています。	面会時や運営推進会議時に、意見や要望を聞くようにしている。開設したばかりで、家族にアンケートの記入をお願いした。返信は少ないが、頂いた意見は部署会議で共有し、それらを運営に反映させている。今年は家族会を予定している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談や部署会議で責任者と職員の意見交換を行っています。管理者と職員は意見を言いやすい雰囲気作りにも努めています。職員は空室のない対応を行っています。	年1回、人事評価で社長や管理者との面談がある。常日頃から職員は、管理者とメールで意見交換が出来るようになっており、提案された意見は部署会議で検討し、事業所運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○ーJTやキャリアステップシステムが出来つつありますが、まだ内容と実際のレベルがあっていません。職員が自分のレベルがわかるような取り組みを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修で統一した考えや技術を習得できる仕組みがあります。外部研修にも積極的に参加し、自身のレベルアップにつなげ内容を部署会議で発表し伝えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し他事業者と交流する機会を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が寂しさや不安を持たれないように面談時などにお話を傾聴し、ご本人の不安・困りごと・希望などを伺い話し合いを持つようにはしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人含め話し合いを持ち、困っている事や要望を引き出し解決の糸口を見つけ、入居前に納得して頂けるよう努めています。事前に施設見学をし入居の希望を頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時、ご本人・ご家族の要望を伺い、困っている事・問題点を確認し適したサービスの提案を行っています。ご利用者の状況を見他施設の紹介も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者の状態に応じ、洗濯干し・洗濯たみ、おやつ作り・掃除などを手伝って頂き、互いに協力しあう関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時に、ご入居者の日常の様子を伝えたり、ご入居者のご家族への思いを、ご家族の入居者への思いを、職員も共に大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のご協力もあり、友人の面会や電話もあります。日常の会話に馴染みの場所や名前、自宅周辺の話をする事により、意欲を引き出し今後も良い関係が続くように支援しています。	長年つき合いのあるお店や知人との継続を、家族協力も得て個別に支援している。友人の面会も多く、ホーム内の好きな場所で話してもらったり、手紙を出すなど、利用者との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の関係を把握し、席の移動を行ったり、職員が間に入り関わりを持って頂いています。ご入居者同士と一緒に洗濯物を干して下さったり散歩に出かけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為、退去されたご入居者やご家族から再入居の希望があり、密な連携をとりながら支援を行っています。また相談された事には快く情報の提供を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方らしい生活を大切に、起床時間・食事など今までの生活ペースにあわせた対応を行っています。会話の中から気持ちをくみ取り対応出来るように努めています。	日々の支援の中で(入浴時が多い)聞いたことは、日常業務日誌に記入し、毎月の部署会議で職員間で共有しながら、希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談やアセスメントで、現在までの環境などを伺っています。馴染みの品を生活の中に取り入れた生活を送って頂き、お一人お一人の時間の流れを継続できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の過ごし方を、職員間で連携を取り、心と体の状況など変化がある時は職員全員が共有出来るようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お一人お一人がより良い生活をして頂けるように、ご家族からお話を伺ったり、職員同士のミーティングで話し合いをし、介護計画を作成しています。	介護計画は利用者の介護状況と課題分析表を基に確認し、更新以外にも状況の変化に応じて、主治医・家族・担当職員の意見も聞きながらモニタリングシートに記入し作成している。作成者が介護のケアも兼ねており、利用者の事が良くわかり毎月評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録などに、ご入居者の日々の様子や普段と違う行動や言動があった際は記録に残すと共に、口頭でも伝達し職員間の情報共有を行っています。またこれらの情報をモニタリング・介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月2回の往診時になるべく多くの情報を伝えたり得たりしています。ご家族のご協力もあり、外出や外食など、可能な限りの支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域で暮らして頂き近隣散歩に出かけています。その際は近隣の方と挨拶を交わし良い関係が築けるよう努めています。定期的に地域のボランティアが来館し交流をはかっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医とナースが密に連携を行っており、往診以外にも必要時は適切な病院への受診を行っています。	契約時に家族に説明し、協力医に変更している。受診時には看護師が状況報告書を作成し、事業所で受診支援をしている。受診結果は主治医が記入した受診報告書で、家族に報告連携している。又、協力医による定期訪問診療が毎月1～2回ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタル測定・体調変化があれば看護師に報告し必要時は受診を行っています。入浴時の全身観察や日々の関わりで表情や身体の変化に気付いた時は、看護師に連絡し支持をおおぎ適切な対応を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時・退院時には双方の症状などの情報交換の努め、入院先・退院後の対応がスムーズに行えるように連携を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況の変化のたびご家族と話し合いを行ったり、面会時にお話を伺っています。状態変化のたび、提携医・ご家族・責任者で今後について話し合いを持っています。	入居時や医療行為が生じた時点で、本人・家族とは話し合いを行っている。看取りについては事業所として、利用者の心身の状態を見ながらその都度、家族・医師・看護師と相談・連携をしながら終末期までの支援をする方針である。職員も同じ思いで実践しながら研修し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時の研修・社内研修・部署会議を通して、急変時や事故発生時の際の対応を身につけています。またユニットにマニュアルを備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	津波・地震・火災を想定した避難訓練や119番通報訓練を行っています。社内独自の安否確認メール訓練により災害時の対応が出来るようにしています。	年2回、事業所独自で避難・消火・通報などの防災訓練を実施している。夜間想定を含めて避難時間や災害の種類による避難場所などの課題が残った。又、ヘルメットなどの防災用具や非常食の備蓄を検討している。	消防署の指導を得て、いつ起こるか分からない災害時に、全職員が落ち着いて行動できる体制作りを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人に合わせた声かけをし同意を得し、気持ち良く過ごして頂けるように工夫しています。	シーツ交換などで居室に入るときなどの言葉かけや、トイレ誘導時の声掛けには特に注意をしている。玄関に法人の方針を掲げると共に、年間計画でプライバシーの確保について研修している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の希望や会話の中からくみ取った事を可能な限り支援しています。入浴希望や外出などはご本人が意思決定をして頂ける様な声かけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者のお話を伺い希望にそった支援を行えるようにしています。食事・着替え・就寝時間など、ご自身のペースで行って頂き、希望により外食・外出支援が出来る環境を整えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	当日の天気や日付を伝え季節に応じた衣類をご自身で選んで頂ける様な声かけを行っています。洗面時には化粧水などをつけられたり、お化粧をされたりと、おしゃれを楽しんでみえます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味・見た目を大切にしています。ご入居者は無理なくして頂ける事をお手伝いして頂き、好き嫌いの多い方は好みの食事を別に作り、味見をして頂き味付けを行っています。	食材配食センターの食事を利用しているが、週1回はお楽しみメニューを利用者と考え、職員と共に作っている。各自、使い慣れた食器を持参し、また、季節の行事食があり、楽しみのある食事の支援をしている。役割に応じて、盛り付け・配膳・下膳・食器洗いを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者の負担にならない声かけにより食事・水分摂取を行っています。食事時に水分摂取しやすいのか食事以外時に水分摂取しやすいのかなど、ご本人に合った対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご入居者が口腔ケアをされた後、磨き残しがないか確認し必要時にお手伝いさせていただきます。提携歯科による口腔ケアも行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をいかし排泄パターンを把握するように努めています。その日の気候や水分量に応じトイレの声かけや誘導を行っています。排泄時の記録から誘導や声かけの時間を見直しています。	個々の排泄チェック表から声掛け・誘導し、どの対応が一番良いのか職員間で検討し共有している。出来るだけトイレでの排泄を心がけ、自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を摂取して頂くよう寒天ゼリーをお出ししたり廊下の歩き運動や腹部マッサージを行い自然排便を促しています。提携医とナースが連携し必要時は薬を服用して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者の体調を考慮しながら希望にそった入浴をして頂いています。好みに応じた入浴剤の使用や温度調節などを行っています。	毎日から週3回、入浴チェック表も参考にして、一人ずつ湯を入れ替えながら入浴支援をしている。体調不良時は、リフト浴・清拭・足浴と健康状態に配慮した支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の体力や疲れ、昨夜の様子なども考慮し、就寝時間やお昼寝をして頂けるような環境を作っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その人にあつた服薬時の声かけをし、決められた服薬手順を守り、服薬ミスや飲み忘れがないように努めています。薬の変更時などは4検を行い、状態の変化に気づけるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的なボランティアの訪問やご入居者の趣味の継続が出来る支援を行っています。日課以外に趣味や興味のある事を引き出す声かけを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換を兼ね、洗濯物干しや日光浴を中庭で行ったり、近隣散歩をしています。ご家族の協力により自宅へ戻り過ぎて頂いたりなど支援を行っています。ご希望などを会話中におっしゃられた時は、実際に希望に添えるように検討し支援しています。	天気の良い日は四季を通じて、敷地内の畑に出て花や野菜の水やり・収穫・草取りなどを行うことが利用者の楽しみとなっている。また、散歩・買い物・ドライブ・受診などで個々の希望に沿った外出支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご自身で管理されることなく施設でお預りしています。職員と外出時は、ご自身で商品を選び・支払いをして頂ける様に支援しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出されたり、ご家族の面会時に他のご身内と電話で会話されたりしています。遠方のご家族からは手紙や電話を頂くと共に会話を楽しまれています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味の園芸をして頂いたり、心地よく過ごして頂けるように工夫しています。壁には季節の飾りつけを行い、季節感を感じて頂いています。ご入居者に混乱のないように、トイレ・居室入り口に写真などを貼らせて頂いています。	居間兼食堂は明るく温かい。職員は台所から居間・廊下などが見渡せれる他、視覚になる所(玄関内)にはモニターの設置で、利用者の安全を見守る工夫がされている。廊下の壁には利用者と職員の共同作品が、四季に応じて飾られている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭が見える場所にソファを置かせて頂き、会話や趣味のスペースとして利用頂いています。陽のあたる所に椅子を移動し新聞を読まれたり、趣味を楽しまれたり出来る環境を整えています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物(箸・茶碗・タンスなど)や思い入れのある物をお持ち頂き新しい環境の中でも心地よく過ごし、居心地の良い空間を提供し早く馴染んで頂けるように工夫しています。	居室入口には写真付きの表札があり、面会者や本人が間違えない工夫がされている。ペットやクローゼットが事業所として設置されている他は、馴染みの物(筆筒・鏡台・机・椅子・仏壇・畳など)を家族の協力を得て持ち込まれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に中庭へ出入りをされ花の水やりをされてみえます。じょうろ・掃除道具などの置き場も把握されており、安全を確保しつつ自立した生活が継続できる支援を行っています。			